

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 福岡財務支局長

【提出日】 2019年11月7日

【四半期会計期間】 第48期第2四半期(自2019年7月1日至2019年9月30日)

【会社名】 イフジ産業株式会社

【英訳名】 Ifuji Sangyo Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 藤井宗徳

【本店の所在の場所】 福岡県糟屋郡粕屋町戸原東二丁目1番29号

【電話番号】 092-938-4561(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総務部長 原 敬

【最寄りの連絡場所】 福岡県糟屋郡粕屋町戸原東二丁目1番29号

【電話番号】 092-938-4561(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総務部長 原 敬

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
証券会員制法人福岡証券取引所
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第47期 第2四半期 連結累計期間	第48期 第2四半期 連結累計期間	第47期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	6,783,623	6,564,582	13,711,916
経常利益 (千円)	358,969	461,993	828,939
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	248,876	310,054	552,128
四半期包括利益又は 包括利益 (千円)	242,572	309,827	541,843
純資産額 (千円)	5,470,083	5,812,803	5,702,717
総資産額 (千円)	10,745,859	10,316,080	10,710,815
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	29.88	37.84	66.28
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	50.9	56.3	53.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	76,121	389,883	761,331
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	123,999	159,541	239,425
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	240,524	430,272	447,194
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,402,501	1,566,092	1,766,022

回次	第47期 第2四半期 連結会計期間	第48期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期 純利益 (円)	13.89	15.94

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業業績の改善や雇用環境の緩やかな回復が見られるものの、世界的な貿易摩擦への懸念や物価の上昇等により消費者の節約志向が高まってきており、不透明な状況になってきました。

食品業界におきましては、原材料価格の上昇や人件費の高騰等による商品の値上げや内容量の減量（実質値上げ）等により、消費者の生活防衛意識が強まってきております。

このような状況の中、当社グループの当第2四半期連結累計期間の経営成績につきましては、売上高は前年同期比3.2%減の6,564百万円となりました。これは主に、鶏卵関連事業における鶏卵相場の低下により連動する販売単価が低下したことや、調味料関連事業における既存商品の販売の減少等によるものであります。

一方で、鶏卵関連事業における販売数量は前年同期比2.8%増と好調に推移し、第2四半期連結累計期間における過去最高となりました。

損益につきましては、鶏卵関連事業において販売数量が増加したことや鶏卵相場の低下により連動する原料仕入単価も低下したこと、また製造コストの削減等により、営業利益は同29.4%増の450百万円、経常利益は同28.7%増の461百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同24.6%増の310百万円となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

鶏卵関連事業

当セグメントにおきましては、主要な商品である液卵の製品販売単価及び原料仕入単価が鶏卵相場に連動して変動するものが多く、鶏卵相場が高く推移した場合は製品販売単価及び原料仕入単価ともに高く推移し、低く推移した場合は製品販売単価及び原料仕入単価ともに低く推移する傾向にあるため、製品販売単価と原料仕入単価の差益を一定額以上確保するとともに販売数量を伸ばす努力をしております。

当セグメントにおける業績の重要な指標である販売数量につきましては前年同期比2.8%増となり、第2四半期連結累計期間における過去最高の販売数量となりました。売上高につきましては、販売数量は増加したものの、鶏卵相場（全農東京M基準値）が前年同期比で約5.9%（約10円）低下したため、連動する販売単価も低下したことにより、液卵売上高は前連結会計年度に比べ3.2%減の5,592百万円となりました。また、加工品売上高はゆで卵や仕入販売の増加等により同9.8%増の249百万円、その他売上高は同0.4%増の186百万円となりました。この結果、当第2四半期連結累計期間の合計の売上高は、同2.6%減の6,029百万円となりました。

セグメント利益につきましては、販売数量が増加したことや鶏卵相場の低下により連動する原料仕入単価も低下したこと、また製造コストの削減等により、前年同期比34.7%増の438百万円となりました。

調味料関連事業

当セグメントの売上高につきましては、既存商品の販売減少やスナック向け商品の採用が少なかったこと等により前年同期比8.8%減の548百万円となりました。

セグメント利益につきましては、主に売上高の減少により、前年同期比73.9%減の3百万円となりました。

その他

当セグメントは太陽光発電事業であり、売上高は天候不順等により前年同期比13.8%減の14百万円となり、セグメント利益は同15.6%減の8百万円となりました。

当社グループの財政状態の分析につきましては次のとおりであります。

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は10,316百万円となり、前連結会計年度末に比べ394百万円減少しました。

流動資産は5,217百万円となり、前連結会計年度末に比べ366百万円減少しました。主な要因は、商品及び製品の増加95百万円、現金及び預金の減少199百万円、受取手形及び売掛金の減少310百万円等によるものであります。

固定資産は5,098百万円となり、前連結会計年度末に比べ27百万円減少しました。主な要因は、建物及び構築物の減少57百万円等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は4,503百万円となり、前連結会計年度末に比べ504百万円減少しました。

流動負債は2,267百万円となり、前連結会計年度末に比べ290百万円減少しました。主な要因は、支払手形及び買掛金の減少167百万円等によるものであります。

固定負債は2,235百万円となり、前連結会計年度末に比べ214百万円減少しました。主な要因は、長期借入金の減少197百万円等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は5,812百万円となり、前連結会計年度末に比べ110百万円増加しました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益310百万円の計上及び配当金の支払い74百万円による利益剰余金の増加235百万円、自己株式の取得124百万円等によるものであります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の53.2%から56.3%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における「現金及び現金同等物の四半期末残高」は、前年同期に比べ163百万円増加し1,566百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動により得られた資金は、前年同期に比べ313百万円増加し389百万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益の計上449百万円、減価償却費の計上189百万円、売上債権の減少310百万円等により資金が増加し、仕入債務の減少167百万円、たな卸資産の増加120百万円、法人税等の支払い152百万円等により資金が減少したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動により使用された資金は、前年同期に比べ35百万円増加し159百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出143百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動により使用された資金は、前年同期に比べ189百万円増加し430百万円となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出242百万円、自己株式の取得による支出124百万円、配当金の支払額75百万円等によるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営方針・経営戦略等について、重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は71百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,792,000
計	16,792,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年11月7日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,345,370	8,345,370	東京証券取引所 (市場第一部) 福岡証券取引所	単元株式数 100株
計	8,345,370	8,345,370		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日		8,345,370		455,850		366,322

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
藤井 宗徳	福岡市東区	1,193	14.66
宇高 紫乃	山口県山口市	675	8.30
藤井 智徳	福岡市東区	543	6.68
株式会社福岡銀行	福岡市中央区天神2丁目13-1	394	4.85
宇高 真一	山口県山口市	375	4.61
宇高 和真	山口県山口市	373	4.58
藤井 将徳	福岡市東区	348	4.28
藤井 泰子	福岡市東区	328	4.04
藤井 徳夫	福岡市東区	240	2.95
宇高 悠真	山口県山口市	240	2.95
計		4,713	57.90

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 203,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,076,000	80,760	
単元未満株式	普通株式 65,470		
発行済株式総数	8,345,370		
総株主の議決権		80,760	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式22株が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) イフジ産業株式会社	福岡県糟屋郡粕屋町 戸原東二丁目1番29号	203,900		203,900	2.44
計		203,900		203,900	2.44

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,303,522	2,103,592
受取手形及び売掛金	2,185,569	1,875,447
商品及び製品	816,022	911,313
仕掛品	47,701	62,999
原材料及び貯蔵品	213,364	223,468
その他	21,645	44,188
貸倒引当金	3,600	3,600
流動資産合計	5,584,225	5,217,411
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,948,762	1,891,123
機械装置及び運搬具(純額)	1,010,586	1,003,497
土地	1,915,929	1,915,929
その他(純額)	89,677	112,698
有形固定資産合計	4,964,956	4,923,248
無形固定資産		
7,768		5,444
投資その他の資産		
投資有価証券	134,408	157,753
その他	20,657	13,421
貸倒引当金	1,200	1,200
投資その他の資産合計	153,865	169,975
固定資産合計	5,126,590	5,098,669
資産合計	10,710,815	10,316,080
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	745,216	577,248
短期借入金	938,188	905,688
未払法人税等	177,673	163,085
未払消費税等	45,392	32,584
賞与引当金	70,638	69,842
役員賞与引当金		21,300
その他	580,983	497,772
流動負債合計	2,558,092	2,267,520
固定負債		
長期借入金	1,798,320	1,600,476
長期未払金	567,235	562,735
繰延税金負債	58,377	46,452
その他	26,072	26,092
固定負債合計	2,450,005	2,235,756
負債合計	5,008,098	4,503,276
純資産の部		
株主資本		
資本金	455,850	455,850
資本剰余金	366,338	366,338
利益剰余金	4,829,919	5,065,007
自己株式	7,002	131,777
株主資本合計	5,645,105	5,755,418
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	57,611	57,385
その他の包括利益累計額合計	57,611	57,385
純資産合計	5,702,717	5,812,803
負債純資産合計	10,710,815	10,316,080

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	6,783,623	6,564,582
売上原価	5,526,323	5,155,121
売上総利益	1,257,299	1,409,461
販売費及び一般管理費	908,967	958,772
営業利益	348,331	450,688
営業外収益		
受取利息	31	38
受取配当金	1,370	1,680
受取賃貸料	12,191	12,235
その他	3,639	3,175
営業外収益合計	17,233	17,131
営業外費用		
支払利息	6,594	5,524
その他		301
営業外費用合計	6,594	5,826
経常利益	358,969	461,993
特別利益		
補助金収入	500	500
受取保険金	10,829	
特別利益合計	11,329	500
特別損失		
固定資産除売却損	0	12,898
災害による損失	9,285	349
特別損失合計	9,285	13,247
税金等調整前四半期純利益	361,014	449,245
法人税、住民税及び事業税	125,353	151,016
法人税等調整額	13,215	11,825
法人税等合計	112,137	139,191
四半期純利益	248,876	310,054
非支配株主に帰属する四半期純利益		
親会社株主に帰属する四半期純利益	248,876	310,054

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	248,876	310,054
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,303	226
その他の包括利益合計	6,303	226
四半期包括利益	242,572	309,827
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	242,572	309,827
非支配株主に係る四半期包括利益		

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	361,014	449,245
減価償却費	201,505	189,534
貸倒引当金の増減額(は減少)	400	
賞与引当金の増減額(は減少)	7,219	796
役員賞与引当金の増減額(は減少)	19,700	21,300
受取利息及び受取配当金	1,402	1,719
支払利息	6,594	5,524
受取保険金	10,829	
補助金収入	500	500
固定資産除売却損益(は益)	0	12,898
災害損失	9,285	349
売上債権の増減額(は増加)	10,373	310,121
たな卸資産の増減額(は増加)	161,989	120,694
仕入債務の増減額(は減少)	76,206	167,968
未払消費税等の増減額(は減少)	124,634	12,807
長期未払金の増減額(は減少)		4,500
その他	30,169	133,532
小計	209,559	546,454
利息及び配当金の受取額	1,407	1,708
利息の支払額	6,576	6,373
保険金の受取額	10,829	
補助金の受取額	500	500
法人税等の支払額	139,598	152,404
営業活動によるキャッシュ・フロー	76,121	389,883
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	204,500	204,500
定期預金の払戻による収入	204,500	204,500
有形固定資産の取得による支出	125,402	143,105
投資有価証券の取得による支出	2,130	23,671
その他	3,533	7,235
投資活動によるキャッシュ・フロー	123,999	159,541
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	136,000	12,000
長期借入れによる収入	150,000	
長期借入金の返済による支出	187,689	242,344
自己株式の取得による支出	39	124,775
配当金の支払額	66,796	75,153
財務活動によるキャッシュ・フロー	240,524	430,272
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	288,403	199,930
現金及び現金同等物の期首残高	1,690,904	1,766,022
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,402,501	1,566,092

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、前連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
受取手形	65,000千円	千円
支払手形	17,927千円	千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
運賃	366,648千円	385,677千円
貸倒引当金繰入額	149千円	千円
賞与引当金繰入額	31,054千円	25,848千円
役員賞与引当金繰入額	19,700千円	21,300千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金	1,940,001千円	2,103,592千円
預入期間が3か月を超える定期預金	537,500千円	537,500千円
現金及び現金同等物	1,402,501千円	1,566,092千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	66,637	8	2018年3月31日	2018年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年11月6日 取締役会	普通株式	66,637	8	2018年9月30日	2018年12月10日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	74,966	9	2019年3月31日	2019年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年11月6日 取締役会	普通株式	73,273	9	2019年9月30日	2019年12月10日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	鶏卵関連事業	調味料関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,189,171	577,845	6,767,017	16,605	6,783,623
セグメント間の内部売上高 又は振替高		24,211	24,211		24,211
計	6,189,171	602,057	6,791,228	16,605	6,807,834
セグメント利益	325,654	12,400	338,055	10,276	348,331

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
 (差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	338,055
「その他」の区分の利益	10,276
四半期連結損益計算書の営業利益	348,331

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	鶏卵関連事業	調味料関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,029,143	521,126	6,550,270	14,312	6,564,582
セグメント間の内部売上高 又は振替高		27,665	27,665		27,665
計	6,029,143	548,792	6,577,935	14,312	6,592,247
セグメント利益	438,782	3,237	442,019	8,668	450,688

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
 (差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	442,019
「その他」の区分の利益	8,668
四半期連結損益計算書の営業利益	450,688

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益	29円88銭	37円84銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	248,876	310,054
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	248,876	310,054
普通株式の期中平均株式数(株)	8,329,678	8,192,877

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第48期（2019年4月1日から2020年3月31日まで）中間配当について、2019年11月6日開催の取締役会において、2019年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

中間配当金の総額	73,273千円
1株当たりの金額	9円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2019年12月10日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月7日

イフジ産業株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	寺	田	篤	芳	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	吉	田	秀	敏	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているイフジ産業株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、イフジ産業株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。